

復活する漢字

漢字は、古代に創作された文字で、現在に引き続いて生きている、世界でただ一つの文字です。今までは、古い故にそれが時代遅れのように考えられていましたが、今は、文字の本質からみて、文字の機能を最もよく備えた文字であることが再認識され始めたのです。

なぜなら、文字は、時間的にも空間的にも極度に制限されるという言葉の欠陥を補うべく生まれたもので、音声の届かない範囲にまで、しかも、いつまでも保存のきく言葉として働くところに、価値を持つものなのです。

とすれば、漢字ほどその機能を大きく効果的に発揮している文字は、他に全く見ることはできません。「日・月・山・川」……これらの文字は、それが生まれた中国という地域を超えて、また五千年という驚くほど長い年代をも超えて、その文字の持つ思想をそのまま今に伝えていきます。

こんな文字が、他のどこにあるでしょう。漢字が、今、欧米諸国の間で見直されようとしているのは当然のことと言わなければなりません。

先ごろ、名神高速道路で、標識認知のための実験が行なわれた時、ローマ字標識は認知するのに、仮名の十倍もの時間がかかったのに対して、漢字は、逆に仮名の十分の一の時間で認知できることが確かめられました。それは、漢字が伝えようとする思想そのものを直接に表わす文字だからです。文字とは、元来そういうものであり、またそういうものでなければ、今後の世の中では十分な効果を発揮することはできなくなるでしょう。

わが国では、今まで、表音化が国語政策の目標でした。ところが、欧米では、逆に表音文字の表意化が、今、真剣に考えられているのです。\$・£・&・Co.・No.……これらは漢字の効果をねらった表意文字であり、欧米では今、益々増加の一途をたどっているのです(このような略号符号は現在でも2~3千ほどは用いられています)。

これは一体どう考えたらよいのでしょうか。